

次世代香川っ子に MY 盆栽を！ ～季節を楽しめる盆栽の魅力～

代表者 神野 玲 菜 （経済学部経営システム学科3年）

1. 目的と概要

現在、海外では、日本の文化や伝統工芸に対して『cool japan』と評価されており、その中で盆栽も『BONSAI』の表記で海外からの人気が高まっている。

一方、国内では香川県高松市は松盆栽の全国シェアの8割を占めているにもかかわらず、高松盆栽の認知度は低く、若い世代には親しみがなく、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。これらの背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」、「高齢者」、「高価」のような親しみにくいイメージの影響があると考えられる。

そこで、このプロジェクト事業はこれらのイメージとは正反対の私たち女子大生が、プロの盆栽作家と、盆栽に興味を持つ初心者とを繋ぐ架け橋のような存在となり、高松盆栽の認知度向上を目指すものである。本年度は、対象を子どもとし、イベントの参加やコミュニティセンターでのワークショップを開催した。



2. 実施期間（実施日）

令和元年6月26日から 令和2年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

私たちのプロジェクトでは、今年度も香川県内を中心に様々なワークショップに出展した。今年度の学生支援プロジェクト事業の中心である「子どもを対象としたワークショップの開催」については、開催回数という観点からは、新型コロナウイルスの影響で2月、3月に予定していた計3回のワークショップが中止となり、結果的に以下の計3回のイベ

ントを開催するにとどまった。

1回目は8月20日に栗林コミュニティセンターで行った。参加者は定員15名のところ4名と少なかったが、その分、子どもたちと会話を楽しみながら深く関わることができ、高松盆栽についてしっかりと伝えることができた。小学校にチラシを配り集客を図ったが、うまくいかなかったため次回このような機会があればもっと夏休みと絡めつつイベントを企画したい。

2回目は10月13日に大町コミュニティセンターで行った。チラシを3つの小学校で配れたこともあり、参加者は15名と定員一杯となった。昨年度もこちらのコミュニティセンターでワークショップを開催していたためスムーズに準備ができた。

3回目は12月27日に屋島コミュニティセンターで行った。このワークショップも参加者は定員一杯の15名であった。これまでのコミュニティセンターでのワークショップ開催の経験を活かし、スムーズに準備ができた。

残りの3回は、十河コミュニティセンター、仏生山コミュニティセンター、高松第一高等学校での開催を予定していた。予約の段階では計57名の参加者を集めることができ、定員が埋まっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止に至ったことは、たいへん残念であった。また、新たなターゲットとして、唯一の高校生を対象とした高松第一高等学校のワークショップでは、香川大学での生活の紹介やプロジェクト活動の紹介プレゼンも予定していただけに、たいへん残念であった。

このプロジェクト事業により、小・中学生を中心に多くの人々が盆栽に触れる機会を創出することができたと考える。また、イベントの出店や開催にあたって、様々な地域の企業や団体の方々とつながることができたため、今後もこのつながりを大切にしていきたい。



左上：屋島コミュニティセンター、右上：大町コミュニティセンター
左下：栗林コミュニティセンター

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

香川大学に与えた影響としては、このプロジェクト事業を実施したことにより、高松盆栽の認知度向上だけでなく、香川大学や香川大学 Bonsai☆Girls Project の認知度も向上したと感じている。その背景としては、昨年度に引き続き今年度もメディアに取り上げていただく機会が多く、香川大学のプロジェクトの1つとしてPR することができたのではないかと考える。具体的には、NHK 高松の「香川がイチバン!」や、NHK の全国放送「あさいち」での出演が挙げられる。また、月に一回のペースで地元タウン誌である香川 komachi や、地元インターネットメディアの「ガーカガワ」、さらには「Yahoo! ライフマガジン」にも掲載させていただいた。

地域社会に与えた影響としては、昨年度からは鬼無グリーンフェアにスタッフとして参加することになり、事前に地域の盆栽作家や植木職人と話し合いの機会を作り、お互いに意見交換を行っている。イベントの打ち合わせはもちろんのこと、高松盆栽に対する思いも伝え合い、今後の高松盆栽の発展に地域と一体となって活動することを目指している。今年度は、新たに Instagram を利用したフォトコンテストを実施した。SNS を用いた新たな企画は学生ならではで、驚きと同時に好意的な意見を持つ方も多かった。



左：komachi の写真

右：鬼無グリーンフェアのフォトコンのチラシ



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回のワークショップは子供を対象としたものだった。そのため、普段のワークショップでは気付くことのできない子どもの目線からの盆栽作りの難しさに気づくことができ、様々な視点から物事を考えることの重要性を学んだ。また、コミュニティセンターの方や小学校の方との交流を通して礼儀やマナーを学んだ。

また、一年間の大まかな計画を立て行動することの重要性を学んだ。候補のコミュニティセンターの教室の空きがないなどの理由で予定が崩れたこともあり、後半の期間にワークショップをする回数も多く、日程調整や連絡が大変だった。目的に沿って計画的に行動することは今後の私生活や学校生活でも活かしていきたい。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点は大きく2つある。

1つ目は、ワークショップの計画が遅れたことである。前述したように、予定していたコミュニティセンターが使えないこともあったが、その場合にも他の候補を探すなど迅速な対応が必要だと感じた。

2つ目は、報告・連絡・相談がおろそかになってしまった点である。今年度、特に2月3月はコロナウイルスの影響で多くのイベントが中止となった。その際、先方の方はもちろん、メンバーや盆栽の仕入れ先の盆栽園の方との連絡が大切だった。しかし、前例がないこともあり私たちの対応に遅れが出たり、判断が難しかったりと問題が多かった。今後は、ワークショップや私たちの活動はお金がかかっていることや多くの人の協力のもと成り立っていることを忘れずに責任をもって対応したい。また、わからないことがあればすぐに先生や担当職員のみなさんに相談するようにしたい。

今後の展望は、これまで子ども向けワークショップは小学生向けに行っていたが、高校生向けのワークショップを行いたい。高校生向けということで、大学生活やプロジェクト活動についてのプレゼンテーションを加えて、大学にも貢献していきたいと考えている。また、ワークショップ以外にも Instagram をはじめとする SNS や香川 komachi、ガーカガワなどでの広報活動にも力を入れていきたい。今年度は初めての試みとしてフリーペーパーを作成し配布したが、テーマをさらに幅広く設定し今後も継続して行っていく予定である。

7. 実施メンバー

代表者 神野 玲菜（経済学部3年）

構成員 森井 琴美（経済学部2年） 角田 綾花（経済学部2年）
福田 里緒（経済学部2年） 山村 明日花（経済学部2年）
大久保 愛（教育学部2年） 近藤 愛鈴（創造工学部2年）
芦田 咲月（経済学部2年） 家喜 あすみ（経済学部1年）
楠 結衣（経済学部1年） 河野 智美（経済学部1年）
小林 由佳（経済学部1年） 近藤 里紗（経済学部1年）
篠原 鈴花（経済学部1年） 高山 佳恋（経済学部1年）
槌道 由奈（経済学部1年） 山形 亜実莉（経済学部1年）

8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,440円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
苔玉材料(8月分)	15		34,560	
苔玉材料(10月分)	15		33,000	
交通費(10月27日)	2	440	880	JR
	1	420	420	JR
交通費(11月3日)	2	660	1,320	JR
交通費(11月13日)	1	500	500	JR
苔玉材料(12月分)	15		24,750	
苔玉材料(2月分)	15		24,750	
苔玉材料(3月分)			79,260	
合計			199,440	